

2025 年度 授業計画(シラバス)

| | | | | | |
|--|--|---|--------|--|---------------|
| 学 科 | 作業療法士学科 | 科 目 区 分 | 専門基礎分野 | 授業の方法 | 講義 |
| 科 目 名 | 解剖生理学Ⅲ | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (2) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 夜間部1年 | 学 期 | 前期 | 教室名 | 基礎医学実習室 |
| 担 当 教 員 | 吉岡 有理亜 | | | | |
| 実務経験と その関連資格 | 作業療法士としてさつき訪問看護ステーション(訪問リハビリ)、鶴見緑地病院(身体障害領域)に勤務。 作業を用いたリハビリテーションに従事。臨床実習指導者研修修了認定、MTDLP基礎研修修了 | | | | |
| 《授業科目における学習内容》 作業療法士にとって必要とされる正常な人体の基本構造と機能を理解することを目標とする。 細胞・組織・器官・器官系の種類と機能、人体の成り立ちや人体の発生を簡単に説明できる。 骨格系の構成とその機能を説明できる。模型で習った構造物を同定できる。 | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 本試験 : 70% 小テスト : 30% | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 解剖学 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 野村 巖編 医学書院 | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 教科書と参考書をよく読み、積極的な予習・復習に努めること。固有名詞については声を出して、耳で覚えること。 わからないところをそのままにしないで、友達や、先生に質問して解決すること。積極的に模型を活用し、様々な構造物をイメージすること。友達同士で教えること。 | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 ①知識は楽にして身に付きません。人体の構造と機能という医学基礎知識を習得するには努力が必要です。②人体についての知識は増えれば増えるほど、勉強が楽しくなります。③病理や臨床については、解剖学の知識がなければ語れません。作業療法士を目指すために頑張りましょう! | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 | |
| 第1回 | 授業を通じての到達目標 | 3つの平面(前頭面・水平面・矢状面)と相対的な位置を表す用語をすらすら説明できる。人体を縦に区切る線や体幹の横断レベルを示す目安を述べることができる。 | 教科書 | 教科書を読むこと。 練習問題を解くこと。 友たち同士で問題を出し合いながら学習すること。 | |
| | 各コマにおける授業予定 | 方向と位置を表す用語・運動用語について学ぶ。 | | | |
| 第2回 | 授業を通じての到達目標 | 細胞の構造と機能を概説できる。上皮組織の種類・分布と機能を説明できる。腺とは何かを理解し、内分泌腺と外分泌腺の違いを説明できる。粘膜・漿膜・滑膜の違いについて説明できる。 | 教科書 | 教科書を読むこと。 練習問題を解くこと。 友たち同士で問題を出し合いながら学習すること。 | |
| | 各コマにおける授業予定 | 細胞の構造と機能、上皮組織と腺 | | | |
| 第3回 | 授業を通じての到達目標 | (狭義の)結合組織の構成と種類、分布について説明できる。軟骨組織の種類と分布を述べることができる。筋組織と神経組織を概説できる。 | 教科書 | 教科書を読むこと。 練習問題を解くこと。 友たち同士で問題を出し合いながら学習すること。 | |
| | 各コマにおける授業予定 | 結合組織、筋組織、神経組織 | | | |
| 第4回 | 授業を通じての到達目標 | 性決定と性染色体、受精から3層性胚盤の形成を述べることができる。外胚葉・中胚葉・内胚葉について、それぞれから発生する組織・器官を挙げることができる。 | 教科書 | 教科書を読むこと。 練習問題を解くこと。 友たち同士で問題を出し合いながら学習すること。 | |
| | 各コマにおける授業予定 | 人体の発生: 受精、着床、各組織・器官の発生 | | | |
| 第5回 | 授業を通じての到達目標 | 骨の構成と機能を概説できる。骨の肉眼構造・顕微構造を図説できる。骨の発生の様式や骨の成長・リモデリングを簡単に説明できる。 | 教科書 | 教科書を読むこと。 練習問題を解くこと。 友たち同士で問題を出し合いながら学習すること。 | |
| | 各コマにおける授業予定 | 骨の分類、発生と成長、構造と機能、骨のリモデリング | | | |

| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|-------------|--|------------|--|
| 第6回 | 授業を通じての到達目標 | 頭蓋の骨を識別できる。骨模型で、頭蓋骨について個々の構造物を識別できる。神経や血管等の通り道である孔・裂などの名称を説明できる。 | 教科書 骨模型 | 教科書を読むこと。 練習問題を解くこと。 友たち同士で問題を出し合いながら学習すること。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 頭蓋骨 | | |
| 第7回 | 授業を通じての到達目標 | 脊柱の役割と特徴を概説できる。椎骨の基本構造を理解し、それぞれの部分(頸椎・胸椎・腰椎等)の特徴を列挙できる。胸郭の構造と機能を説明できる。 | 教科書 骨模型 | 教科書を読むこと。 練習問題を解くこと。 友たち同士で問題を出し合いながら学習すること。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 脊柱と胸郭(胸骨、肋骨) | | |
| 第8回 | 授業を通じての到達目標 | 骨模型で、脊柱・椎骨・胸郭について個々の構造物を識別できる。脊柱と胸郭について、模型での口頭試問をクリアできる。 | 教科書 骨模型 | 教科書を読むこと。 練習問題を解くこと。 友たち同士で問題を出し合いながら学習すること。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 脊柱と胸郭実習 | | |
| 第9回 | 授業を通じての到達目標 | 上肢の骨の構成と局所の名称を説明できる。 | 教科書 骨模型 | 教科書を読むこと。 練習問題を解くこと。 友たち同士で問題を出し合いながら学習すること。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 上肢帯と自由上肢の骨 | | |
| 第10回 | 授業を通じての到達目標 | 上肢の骨の構成と局所の名称を説明できる。 | 教科書 骨模型 | 教科書を読むこと。 練習問題を解くこと。 友たち同士で問題を出し合いながら学習すること。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 上肢帯と自由上肢の骨 | | |
| 第11回 | 授業を通じての到達目標 | 上肢の骨の構成と局所の名称を説明できる。 | 教科書 骨模型 | 教科書を読むこと。 練習問題を解くこと。 友たち同士で問題を出し合いながら学習すること。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 上肢帯と自由上肢の骨 | | |
| 第12回 | 授業を通じての到達目標 | 下肢の骨の構成と局所の名称を説明できる。骨盤の構造と性差を説明できる。 | 教科書 骨模型 | 教科書を読むこと。 練習問題を解くこと。 友たち同士で問題を出し合いながら学習すること。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 下肢帯と自由下肢の骨 | | |
| 第13回 | 授業を通じての到達目標 | 下肢の骨の構成と局所の名称を説明できる。骨盤の構造と性差を説明できる。 | 教科書 骨模型 | 教科書を読むこと。 練習問題を解くこと。 友たち同士で問題を出し合いながら学習すること。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 下肢帯と自由下肢の骨 | | |
| 第14回 | 授業を通じての到達目標 | 骨連結の種類と特徴を簡単に説明できる。滑膜性関節の構造・分類を説明できる。 | 教科書 骨模型 | 教科書を読むこと。 練習問題を解くこと。 友たち同士で問題を出し合いながら学習すること。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 骨連結の種類、滑膜性関節の構造と分類 | | |
| 第15回 | 授業を通じての到達目標 | 顎関節の構成・機能を説明できる。脊柱の連結様式、特に頸椎・胸椎・腰椎における連結の特徴と運動との関連性を説明できる。頭関節の構成と機能を説明できる。 | 教科書 骨模型 | 教科書を読むこと。 練習問題を解くこと。 友たち同士で問題を出し合いながら学習すること。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 頭蓋の連結、脊柱、脊柱と頭蓋及び胸郭の連結 | | |